



鳥羽 景介 Toba Keisuke
木材加工・特性研究領域

私たちの身の回りには、多種多様の樹木が存在します。生物である樹木にとって、**水**の存在は不可欠です。一方で、樹木を加工して木材として建築物や家具などに利用するには、水を抜きとる乾燥の工程が不可欠です。

木材には、周囲の温湿度条件に応じて内部の水分の量を調節する性質があり、それに伴って寸法が変化します。乾燥が不十分であると、木製品を利用する環境において乾燥が起こり、ときに割れや変形が生じてしまいます。

木材の乾燥方法は天然乾燥と人工乾燥とに大別されます。どの程度まで乾燥させるかは、各種の規格（日本農林規格など）で定められていますが、通常、その基準を満たすためには人工乾燥の実施が必要となります。木材の人工乾燥では、加熱した蒸気を熱源に用いる方法が主流です。蒸気によって乾燥機の中の温湿度を調節して木材を乾かす過程では、木材の変色

■ 樹木に不可欠な水は木材利用の悩みの種 ■

木材の乾燥は木製品の価値を左右する大切な工程です。昨今の省エネや脱炭素といった環境配慮の機運の高まりも相まって、今後も製品用途に応じた適切な乾燥方法の検証・提案が求められます。

（2025年6月13日開催講座より）

や強度低下、割れといった各種の欠陥の抑制が課題となります。中でも建築用の木材の乾燥では、表面の割れの発生が外観を損ねることになります。そのため、高温セット処理と呼ばれる手法で抑制を図るのが一般的です。一方で、乾燥の条件が不適切な場合、外観からは見えない内部の割れが起きてしまいます。



人工乾燥を行うときの木材のようす
所定の寸法に製材した木材を積み上げて乾燥機に入れ、蒸気で加熱して乾燥を行う。



樹木園に植栽された樹木のようす
樹木には多くの水が含まれており、木材として利用するときには水を抜きとる乾燥が不可欠。

2026年度 森林講座のお知らせ

2026年

7月16日(木曜日)

「花粉を少なく、そしてなくす」

—品種改良によるスギ花粉症への対応—

三浦 真弘 (林木育種センター育種第一課長)

8月21日(金曜日)

「クロストーク:写真で巡る」

日本列島の多様な植生

松井 哲哉 (森林植生研究領域)

× 設楽 拓人 (多摩森林科学園)

10月15日(木曜日)

「森林の攪乱と水循環」

小田 智基 (森林防災研究領域)

11月11日(水曜日)

「クマはなぜ人里に出没するのか？」

—安定同位体分析から読み解くクマの食生態—

中下 留美子 (野生動物研究領域)

12月11日(金曜日)

「セルロース、それは」

生活に欠かせない木材の成分

戸川 英二 (森林資源化学研究領域)

2027年

1月19日(火曜日)

「樹木の根」

地下に隠れたその姿と様々な役割

野口 享太郎 (立地環境研究領域)

2月19日(金曜日)

「木を寝かせる技術」

上村 巧 (林業工学研究領域)

一般の方々を対象に森林総合研究所の研究成果を分かりやすく解説する「森林講座」を多摩森林科学園森の科学館で各日午後1時15分～3時に開きます。受講無料。

◆受講申込み

希望講座名と受講者の郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記したメールまたは往復はがきを下記の申込先にお送りください。1通で1講座3名まで応募できます。講座開催日の前月1日から受け付け、先着順で定員30名に達し次第締め切ります。最新情報は下記2次元コードから「森林講座(2026年度)」ページをご覧ください。

◆講座会場・申込先・お問合せ先

多摩森林科学園

メール: shinrinkouza@ffpri.go.jp

〒193-0843

東京都八王子市甘里町1833-81

お問合せ電話: 042-661-1121

◆「森林講座(2026年度)」ページ

